

2005年（平成17年度）

市保連ニュース

Vol. 5-i 2005. 12. 16

<http://hoiku.ram.ne.jp/shihoren/>（非公式サイト）

『なんかオカシイゾ？ 公立保育園改革…』 特別号！

この数年間、市保連定例会では公立保育園改革計画のことを毎月話し合ってきました。そして11月定例会では特に集中的に話し合いました。このニュースでは定例会での主な意見をご紹介します。

◇改革計画について

◇民営化を突きつけられていることについて

- ほかの街の話だが、公立保育園が民営化されたとたん、職員が全員入れ替わって大変な思いをしたという話を聞いた。
- 今現在、正規職員が減って、それでも残った先生たちの頑張りで影響が表面化していないのがわかる。これ以上、職員が減ったら今以上に余裕がなくなる。そのしわ寄せは子どもに来るはず。
- 保育の質の向上は、職員が安心して、のびのびと働ける環境があつてこそ。今の状況は職員にとってプラスとは思えない。
- 経験豊かな正規職員である保育士がリストラされている中、保育の質の向上があるのか？
- これ以上の保育料の値上げはやめてほしい！
- 保護者は毎年新しい人が入ってくるのに何故キチンと説明しないのか？
- 改革はやめてほしい。もしくは仕切り直しするべき！

◇評価委員会について

- 第1回目の「評価委員会と市民の集い」（04/10/28）の会議抄録には載っていないが、保育の質について質問したときに『我々は素人、我々に保育の質を聞くのは愚問』と回答していた。
- 保育の質をはかれないクセに評価なんて論外！
- “評価委員会”も市民との集いと言いながら、集いを開催する部屋が小さい。たくさん人が来たら困るんじゃないのか？

◇これまでの経過について

- 武蔵野市公立保育園のあり方を考える委員会（あり方委員会）に始まって改革計画にいたるまでの経過や、現在進んでいる計画のことを知らない保護者が多い。
- 経過を見れば、確かに“あり方委員会”の中間報告に対して、意見を受け付ける機会があった。市保連の定例会でも何度も話されてきていた。保護者の受けとめ方も弱かった。
- 忙しさにかまけて、知ろうとしない保護者も多いのでは？
- しかし、市保連として“あり方委員会”に対して、中間報告提出後に数回話し合いを求めたのにも関わらず、全て拒否してきている。
- 公立園では、市保連ニュースのポケット配付を止められることが多い。これでは保護者に知らせないといけなことが伝えきれない。
- 配付前にいちいちニュース内容にチェックを入れて行政の認識しかニュースに載せないようにしているのはおかしい。
- そもそも何故これほど改革計画の認知度が低いのか？
- 保護者に知らせないようにしていないだろうか？キチンとした保護者代表は、“あり方委員会”にも“評価委員会”にも居ない。
- 現状の、形式的な情報周知の方法では保護者に十分に情報が行き渡っておらず、いろいろなことが水面下で進んでいるように見える。もっと保護者に情報が行き渡る方法が必要では？
- 職員ともっといろいろ話せる機会があったら良かった。もっと懇談するべきだった。
- しかし、話し合いを持とうとしたときに園舎すら借りられなかった。子どもが通う保育園のことを話し合うのに、園舎で職員と話すことが出来ないことはおかしい。
- 結局、表面的な市民参加だった。保護者の意見なんて都合の良いものしか利用していない。

◇そのほか

- 本当にありがたいのは、困ったときベテランの先生が、すぐに相談に乗ってくれ、安心させてくれること。どんな些細なことでも親身に対応してくれ、かつ説得力があり、相談してよかった！と思わせてくれる。子どもと一緒に走って走り回れる若い職員のパワーもありがたいが、それもベテラン職員の蓄積された経験に基づく安心感に支えられているからこそ。
- 《保育の質》は子どもの成長のそのもの。なのだから、保護者と職員が率直に子どものことを話し合えなければ意味がない。保育の質を向上させることができるのは、保護者と職員だけ。上から押し付ける保育の質の向上なんて有得ない！
- 乳児園からの転園がキチンと確約されていない!? 公立園の民営化や詰め込みの前にまず保育園の新設をするべき！

改革に関する、保育課長さんとの意見交換会 開催決定!!
2006年1月10日（火）19:00～ 中町集会所にて